



# COLORS, FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th

2024年、川崎市は市制100周年をむかえます。

川崎の発展を育んだ源は、二ヶ領用水でした。

地域の人々の尽力によって江戸時代に完成した二ヶ領用水。  
それは、農業用水、工業用水、そして飲み水をもたらす地域に欠かせない  
水脈として川崎の発展を支え続けてきました。  
私たちの毎日も、きつとこの土地と歴史に刻まれていく。  
100年目の川崎市ではじまるColors,Future! Actions。  
このまちを発展させてきた人たちに感謝を抱きながら、  
未来の人たちへとつないでいく多彩なアクションを、さあいっしょに。

Photo / 高津区 二ヶ領用水 久地円筒分水 滝村昭一さん提供 昭和20(1945)年代



Colors,Future!  
いろいろって、未来。

川崎市

## 川崎市市制100周年記念 7区の歴史を振り返る



特設サイト  
<https://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000147126.html>

2024年、川崎市は市制100周年をむかえます。  
その歴史を知るため、川崎市7区をぶらりと歩いてみました。  
それぞれの区の昔の写真を手に、歩いて、見て、聞いて、感じて、発見したこと。  
それは今に至る100年の発展の理由でした。  
あなたの住んでいるまちの昔を知っていますか？  
過去にはこれからの100年先の未来を考えるヒントが、きっとあるはずです。



歩いて発見！  
知ってナルホド！

# ぶら高津区



## 人の道と水の道で どう栄えたのか？

高津区には人の道と水の道があります。江戸と大山阿夫利神社を結ぶ大山街道と、水を下流の4つの堀に分ける久地円筒分水のある二ヶ領用水です。その発展の記憶を探しに、ぶら歩きしました。



橋樹官衙遺跡群  
史跡公園イメージ図



川崎市で初めて国史跡に指定された橋樹官衙遺跡群。古代武蔵国橋樹郡の役所跡「千年伊勢山台遺跡」と古代寺院跡の「影向寺遺跡」から構成されている。現在は、史跡公園整備工事が進行中だ。

古代からの歴史も豊か



案内人はこの方

高津区役所  
まちづくり推進部  
企画課  
今井映子さん

遣いが感じられる。駅界隈はまるで異なる新旧ふたつの貌を持つ。昔も今も、この駅周辺には人々を惹きつけてやまない魅力があることを実感した。

### ぶら高津区 ② 大山街道

### 江戸への物流の大動脈だった頃の面影を探して旧街道を散策

さて大山街道へ。江戸・赤坂御門を基点に、

大山阿夫利神社(神奈川県伊勢原市)まで続く街道のことだ。かつて大山は雨降山とも呼ばれ、多くの人が雨乞いのために訪れた。また駿河の茶や真綿、伊豆の椎茸や乾魚、秦野のたばこなどを江戸に運ぶ大切な輸送路としても利用された。二子と溝口には宿駅が置かれ、たいそうにぎわったという。



灰吹屋薬局の蔵(左)はかつての大山街道の様子を今に伝える。よろずやとして宝暦年間に創業した田中屋(右)は、江戸幕府から度量衡販売の免許を受けてはかり屋として栄えた。また製茶工場を建て茶の製造販売も行っている。

### 今も水を4分割し続けている 久地円筒分水から二ヶ領用水の遊歩道へ

大山街道の高津交差点には、宝暦年間(18世紀半ば)に創業したお茶の田中屋がある。同店で昔ながらの製法を伝える武州茶をいただき、国登録有形文化財の久地円筒分水を目指した。かつて二ヶ領本川から取り入れられた水は久地分量樋で4つの堀へと分けられていたが、水の配分をめぐる争いが絶えなかった。そこで造られたのが円筒分水。1941(昭和16)年に完成した。高津区にははるか昔の史跡もある。7世紀から10世紀の古代行政の推移を知る上できわめて重要な橋樹官衙遺跡群だ。

古くから人と水の行き来だけでなく、古代には政治の中核もあつたとはい、なるほど高津区は奥が深い。



区内を流れる二ヶ領用水。あちこちで野鳥が羽を休める姿も見られ、区民の目を楽しませてくれる。なおカラー化した大山街道の写真は、二ヶ領用水に架けられた大石橋のたもとである。

### ぶら高津区 ① 溝口駅周辺

### 高津区最大の溝口駅前には 昭和の匂いが色濃く残っていた

JR南武線武蔵溝ノ口駅からキラリデッキという名の高架式の駅前広場を歩いて、東急田園都市線溝の口駅へ向かう。ふと後ろを振り返ると、ノクティプラザが見える。みぞのくちの「のくち」と「シテイ」とを合わせて命名された大型商業施設だ。高津区役所の今井映子さんが教えてくれた。

「1993(平成5)年に着工され、1997(平成9)年にノクティプラザが開業。翌年の南北自由通路完成を経て、2年後に事業は完了しました」と

という説明を聞きつつ、訪れてみたのは南武線沿いに伸びる溝の口駅西口商店街。青果店や飲食店が多く軒を接する。昭和の匂いが色濃く残り、人々の息

### 武蔵 溝ノ口駅前

提供：田村隆司氏



1952  
カラー化写真



2022

まだ戦後の佇まいが感じられる1952(昭和27)年頃の駅前。この2年後に神武景気が始まり、高度経済成長期に入っていく。再開後の駅前は、クリスマス時期のイルミネーションなどで人々を楽しませる。

提供：川崎市大山街道ふるさと館(上田恒三氏撮影)



2022

第1回人間国宝・陶芸家の濱田庄司氏は、1894(明治27)年に溝口にある母の実家で生まれた。3歳まで東京で両親と過ごしたが、病弱なために祖父の家に預けられた。それが大山街道沿いに建っていた和菓子店の大和屋だった。宗隆寺に墓所がある。



1966  
カラー化写真

### 大山街道



キラリデッキとは対照的に、昔ながらの人間臭さが魅力的な溝の口駅西口商店街。レトロなアーケードが架けられて、中にはY字型の三叉路もある。和菓子屋や八百屋などがあるが、その「本領」が発揮されるのは夜だろう。大衆酒場が人々を癒してくれる。

「1993(平成5)年に着工され、1997(平成9)年にノクティプラザが開業。翌年の南北自由通路完成を経て、2年後に事業は完了しました」と

という説明を聞きつつ、訪れてみたのは南武線沿いに伸びる溝の口駅西口商店街。青果店や飲食店が多く軒を接する。昭和の匂いが色濃く残り、人々の息

### 久地 円筒分水

提供：滝村昭一氏



1950  
カラー化写真



2022

二ヶ領用水は、徳川家康の命で14年もの歳月をかけて1611(慶長16)年に造られた農業用水路だ。久地円筒分水は、その水を4つの堀に公平に分け流すため、下から吹き上がってくる水を円筒比によって分けている。

### 白黒写真カラー化プロジェクトとは

かわさきマイスターの印刷技能士・流石栄基さんにより、昔の川崎の白黒写真20作品をカラーで再現しました。プロジェクトはガバメントクラウドファンディングによって実現されました。

### ヤクルトファンが詣りするお寺が？

大山街道沿いにある宗隆寺(そうりゅうじ)は、ヤクルトスワローズの村上宗隆選手と同じ名であり、監督と同名の「高津」区にあることが縁で、ファンによる参拝が増えた。



### 超ぜいたくな文化人のコラボ！

二子神社にある歌人の岡本かの子氏を顕彰する文学碑「誇り」は、息子の岡本太郎氏が制作。築山と台座は建築家・丹下健三氏。碑文は文芸評論家・亀井勝一郎氏の文を、川端康成氏が筆を取った。



### 高津区トリビア

